

一宮町役場庁舎建設について

昭和42年に建設された現庁舎は、大きな地震がくると倒壊する危険性があること、行政機能の増大により手狭になったことにより十分な行政サービスを提供できないことから早急に新庁舎を建設する必要があります。

そのため、町内の各団体の代表者や学識委員、公募による委員など10人の委員で構成する一宮町庁舎建設検討委員会を組織し、平成22年8月から平成23年3月まで8回にわたる会議を開催し、庁舎建設の基本的な考え方について意見をいただきました。

一宮町庁舎建設検討委員会の答申を受けて、庁内に一宮町庁舎建設推進委員会を設置し、具体的な項目について作業を進めてきました。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の教訓を生かして、建設場所や建設方法などを再度検討し、このほど素案としての新庁舎建設基本構想・基本計画をまとめましたので町民の皆様に発表いたします。

いうまでもなく役場の庁舎は、町の行政サービスの中心であり、災害時には災害対策本部の機能を担う大事な役割を果たします。その建設問題は、将来にわたって今後一宮町が発展していく姿を考えながらすすめていくべき重要な問題です。

新庁舎の候補地、建設方法については、町内に様々な意見があり、これをひとつに取りまとめることは、決して容易なことではないと考えています。

そこでまず住民説明会を開催し、町役場が持っている全ての情報を公開します。

そしてパブリックコメントを実施し、広く意見をくみ上げて、庁舎建設の参考に致します。

このように重要な庁舎建設について、町民の皆様にも一緒に考え、意見を寄せていただくことを通じて、理解と納得を得ながら新庁舎の建設を進めてまいります。